

お忙しくても、約2分間で読めます

山内公認会計士事務所

# ハートフル・ワード (心からの言葉)

TEL 098-868-6895  
FAX 098-863-1495

## 経営者への活きた言葉

### 経営は「生き方」を問え 野中 郁次郎（一橋大学名誉教授）

1. 危機を打開する鍵は人間の行き方です。「おまえ、どういう生き方をしたいのか」という目的が根本にない経営は、空理空論でしかありません。こうした生き方を問う哲学を反映した経営戦略では、京セラ創業者の稲盛和夫氏が有名です。稲盛氏が行動規範で影響を受けたのは、母親の知恵だそうです。
2. どの会社も「ビジョン」は掲げていますが、これはいわば未来創造の筋書き（プロット）です。どう実行するのかを具体的に示す「行動規範」にまで、落とし込む必要があります。我々はそれを「スクリプト（台本）」と言っていますが、日常の文脈に応じた行動として一人ひとりに身体化されるようにしなければならない。だから、画一的なマニュアルとは違い、ガツンと腹にくるのです。
3. 今、明治期の政治家や企業リーダーの研究をしていますが、明治維新前に生まれた経営者はほとんど下級武士の出身です。渋沢栄一のような農民の子でも、必ず四書五経を学び武道もやっている。侍の心を持ち、国を背負うという気概がある。この国をどうするかを真剣に考え、行動した人たちです。

（参考：「日経ビジネス」2020年9月14日号）

## 経営者のための理念・哲学

### 我以外皆我が師（吉川英治）

1. 人生は、たった一度の命をどう生きるか、結局はそのことに尽きます。命というのはいま、いま、いまの連続です。いまここを、いただいた命に相応しい生き方として選んでいく。そのことで人間が磨かれ、人間としての根が深まっていくと思います。そして深まるほど足りない自分というものに気がついていく。
2. 生かされた命ということが本当に分かってくれば、自ずからそれに相応しい生き方をしないではおれなくなる。学ぶほど足りない自分に気づけば、限りなく学ばないでおれなくなる。人生は一度きり、それをどう生きるかという自覚が生まれれば、吉川英治さんが「我以外皆我が師」とおっしゃっているように、よいことも悪いことも、自分の心次第ですべて人生の根を養う材料にすることができます。  
（参考：「致知」：2020年11月号）

## ワンポイント経営アドバイス

### コロナ騒動は強みを発揮できるチャンス

#### 楠木 健（一橋ビジネススクール教授）

1. 「4～6月期のGDP（国内総生産）が年率27.8%のマイナス、海外からのインバウンド旅行者は皆無、マーケットの一部は蒸発しています」の間に、「判断が難しい」と人前で言う経営者がいます。しかし難しい判断をするのが経営者の仕事です。コロナ禍は経営の巧拙を分けると同時に、経営者の「本物」と「偽物」を明らかにしたと思います。
2. 「コントロールできるものとコントロールできないものを線引きする」ことが大切です。例えば、インバウンドが減るということは、アウトバウンドも減るということ。海外旅行をやめる人たちは、やっぱり旅行せずにはいられないので、国内旅行に戻ってくるわけです。コロナ騒動はある種、思いも寄らない強みというものを発揮できるチャンスかもしれない。

（参考：「週刊ダイヤモンド」2020年9月26日号）

## 古典に学ぶ

### 聖人の域に達する

（解説）ただ今日の教育は、余りに智を得るのみにはしって、精神を練磨することに乏しいから、それを補うための修養である。けだし修養ということは広い意味であって、精神も知識も身体も行状も向上するように練磨することで、青年も老人も等しく修めねばならぬ。かくて息むことなければ、ついには聖人の域に達することができるのである。

（参考：渋沢栄一「論語と算盤」：国書刊行会）